

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム（2006.12）7巻1号:22.

「旭川医科大学学術振興後援資金」について

小川勝洋

「旭川医科大学学術振興後援資金」について

小 川 勝 洋

「旭川医科大学学術振興後援資金」は、旭川医科大学30周年記念事業の一つとして、平成16年度からスタートしました。私は、当時この事業の実施委員会の代表者を務めておりましたので、本資金について経緯を説明させていただきます。この資金は、学長が趣意書の中で述べている通りに、法人化に伴って財政が厳しくなる中、学生や若い研究者を支援し、夢のある大学にしたいということから開始したものです。募金は、平成16年9月から1億円を目標として開始し、本学教職員、元教職員、卒業生、企業などをお願いするとともに、同窓会総会、入学式、卒業式、公開講座などの際にも、同窓生、学生の父兄、市民の方々などにも広くお願いしてきました。平成18年9月時点で、目標額には及びませんが、募金額は3,863万円になりました。本事業は、今後も継続することとしており、本年度は趣意書を新たに印刷して、事業の概要、17年度の事業報告、支援の受けた方からの報告を掲載するとともに、個人の募金を一口1万円から5千円に、法人の募金を一口5万円から3万円に引き下げることとしております。

資金の運用は、平成17年度から開始しており、旭川医科大学学術振興後援資金管理運用委員会（学外者を含む7名の委員で構成、委員長は学長）で、年度ごとに事業計画を策定して学内から公募しています。平成17年度の助成は、「若手研究者への研究活動助成」、「若手研究者の国際学会等への派遣」、「留学生への支援」、「国際学生交流」でしたが、18年度は、「大学院学生への支援」を加えました。これは、新規の大学院博士課程入学者に対して、年間の授業料にはほぼ相当する50万円を支給するものです。本学は、大学院博士課程の学生充足率が85%を割っていることに対して、国立大学法人評価委員会から、大変厳しい評価を受けている

ため、さまざまな大学院改革を進めておりますが、その一環として本資金により大学院学生の支援を行うこととしました。また、18年度は、「若手研究者の国際学会への派遣」の公募は、年2回行うこととしております。公募の開始は、年度始め（4－5月頃）に、書面で各講座等に通知しており、応募要項や申請書の様式は、ホームページからダウンロードしてもらうようになっておりますので、奮って応募して下さい。なお、採択された助成課題については、報告書の提出を義務づけております。本資金に関する事務は、総務課で行っておりますので、詳しくは、旭川医科大学総務課（Tel 0166-68-2197）に問い合わせして下さい。また、本資金に関する事業計画、運用ならびに収支決算については、役員会、経営協議会、教育研究評議会、教授会などで報告しており、また、ホームページにも掲載しております。

本資金については、公平でかつ戦略的な運用がなされているところではありますが、安孫子先生からご指摘いただいた点については、今後の改善に生かさせていただきたいと思います。

昨今の厳しい情勢のもとで、本学が生き残っていくためには、本学が国民並びに地域住民にとって、どれほどに大事な存在であり続けるかにかかっています。そのためには、教職員、学生をはじめ、本学に関わるすべての人たちが、それぞれの立場でベストを尽くすしかありませんが、他方ではたくさんの方々からの強力な応援が必要です。旭川医科大学の応援団の皆様には、今後とも、本学に対して、暖かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（旭川医科大学副学長）